

週日の説教

金 大烈 神父 2011年8月11日(木)

《限りなく赦しましょう ～赦せない傷は神様の内に乗り越えて～》

今日の福音(マタイ 18・21-19・1)は、あまりにも有名なたとえ話です。説明をしなくてもよいくらいだと思います。それに、この箇所については「デナリオンとタラントンの違い」、「七という数字の意味」など、既にお話をしたこともあります。しかし、皆様は覚えていらっしゃるかもしれないかもしれませんね。

とにかく、『七』という数字は、イスラエル人が伝統的に一番完璧と考えていた数字です。ですから、ペテロが「七回まで赦せばよいでしょうか。」と聞いたのは、「自分が出来る限り赦せばよいでしょうか。」と聞いたのと同じ意味になります。しかしイエス様は、「七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。」とおっしゃっています。これは、限りなく、無制限に赦しなさい、ということです。そしてイエス様は、その話しをされてから、家来のたとえ話をされましたね。

この話を讀んだら、誰でも「最初に借金を帳消しにしてもらった家来が悪い人だ。」と思いますよね。そして、「この悪い家来は自分とは関係ないのだろう。」と思うでしょう。しかし、この話の中心となるメッセージは、「神様から、いつも、数えきれないくらい何回も赦された人が、なぜ人の小さなことを赦せないのか」という内容です。主君に牢に入れられた悪い家来は、結局は私たち全ての人間のことです。よく考えてみてください。困るのは、自分がどのくらい神様に癒されているのか、赦されているのか感じない人です。いつも自分の力や頭だけを信じて、見下ろす視線で人々を見るのです。しかし、実際には私たちは、神様に赦されているからこのように生きているのです。それを感じるだけでも、私たちの信仰の持ち方は変わると思います。

今日の話を読んで、この家来のことを「ああ、これは本当に悪い人だ。」と思わない人は誰もいないでしょう。しかしある意味で、これは私たち一人一人に対するメッセージであることを意識しなければなりません。七回どころか七の七十倍までも赦し合いましょう。よく考えてみて、皆様が赦せない内容は、命をかけるくらいそんなに大事なことなんでしょうか。それほどまでに赦せないことは、一生に一度あるかどうかくらいでしょう。本当に赦せないくらいの憎しみの相手とは、一生に一度出会うか出会わないくらいでしょう。ほとんどの人は、一生に一度も出会えないと思います。それなのに、癖になってしまって、毎日「赦せない、赦せない」と口にしてしているのです。そのような私たちに対して、イエス様は、警告しています。「私もあなたたちを知らない、と言おう」と。そういうことを意識しましょう。

次に、赦せない原因についてですが、いろいろあると思います。しかし、一番主な原因は、『傷』だと思います。そして、『傷』というものは、遠い関係の人からは受ける機会がありません。関わりのある人々から受けるのが『傷』です。私たちはだいたい、親や兄弟、親戚、妻からも、夫からも傷を

受けます。そのような身近な人から受けるのが『傷』です。

女性の皆様は、今までご主人から傷を受けて生きて来たと思っていますよね。ではご主人はどう思っているのでしょうか。おそらく同じことを思っているのでしょうか。では、そのような心の傷が癒されるためには、どのような方法があるのでしょうか。何よりも先ず、神様のうちにその傷を理解しようとしてみてください。「なぜ私にこのような試練が来るのでしょうか。私はなぜこのような存在になってしまったのでしょうか。」と神様に悔しい心をぶつけるより、「この痛みには、どのようなみ旨が隠れているのでしょうか。この傷をとおして、私はどのように成長出来るのでしょうか。」と聞いてください。

人は、傷なしには成長できません。傷を上手く乗り越えるかどうかによって、その人が成長するかどうかが決まるのです。信仰の目で見れば、皆様が持っている傷は、恵みかもしれませぬ。傷がなくても、このようにイエス様に頼る心が出来上がったのでしょうか。いいえ、そんなことはないでしょう。傷があるから出来上がったのです。私も傷があるから神父になったのでしょうか。いろいろなことは、みんなそういう意味だと私は思います。

今日は聖女クララの祝日です。彼女は、なぜ貧しい人々のためにフランシスコ聖人に従う生き方を最後までしたのでしょうか。彼女も当時の世の中からいろいろな傷を感じたのでしょうか。なぜこのような痛みのある世界で生きなければならないのか、と思ったのでしょうか。そういう傷を受けたのです。

“傷をはっきり見る”そして“隠さない”そういう生き方が何よりも必要だと思います。そしてその答えは、憎しみを通して人から探すのではなく、神様との関わりの中で読み取ろうとするのが一番賢明な方法だと思います。

ありがとうございました。